

今週（7月5日から7月9日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間後半に入ったものの、序盤から積極的に積みを進捗させていた先が多く、着地に目処がつきつつあることから、取り上がるような動きは見られず、レート水準は前週比でほぼ横ばいとなった。日銀当座預金残高が概ね530兆円台前半で推移する中、無担保コールO/N物は国内勢の調達を中心に▲0.05～▲0.015%のレンジでの出会いが始まった。その後もレート水準に大きな変化は見られず、無担保コールO/N物加重平均レートは週を通して▲0.03%台前半と横ばい圏で推移した。週末3日積みとなる9日も特段地合いに変化は見られず、▲0.05～▲0.015%のレンジでの出会いとなった。ターム物に関しては、ショートターム物で▲0.02%近辺での出会いが散見された。

●レポ市場

今週のGC T/N物は、概ね▲0.080～▲0.065%程度の出合い水準となった。
SCは個別銘柄では2Y414～422、5Y142～146、10Y349～362、20Y169～175、30Y66～69、40Y13など、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、6M物が入札以降▲0.123%での出会いが見られるなど強含んで推移した。一方で、3M、1Yゾーンは先週比ほぼ横ばいで推移した。

6日に行われた短国買入オペは、前回から2,500億円増額の15,000億円でオファーされ、平均落札利回較差、按分落札利回較差ともに+0.003%と、やや弱い結果となった。1Y物の応札が多く、引き続き1Y物の在庫の重さが意識される結果となった。

8日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.103%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1116%、按分落札利回▲0.1096%と、年末越えの需要からやや強い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.123%出会いが見られるなど、堅調に推移した。

9日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.108～▲0.103%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1038%、按分落札利回▲0.1002%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.100～▲0.098%の出合いが見られるなど、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、特段のイベントは無かったものの、卸売・石油等の業態から期明けの大型発行案件が見られた。週間償還総額が1,000億円弱に対して、発行総額は5,000億円弱と、大幅な発行超となった。入札ベースで見ると、連日発行額が償還額を上回っていることで、先週末時点で23.5兆円弱となった市場残高は、9日時点では24兆円程度まで積み上がる見通しとなっている。発行レートは、引き続き新型コロナオペの担保需要から、積極的な買いが見られているため、希少銘柄ではかなり深いマイナスでの発行が見られている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
7/5（月）	28,598.19	0.030	111.14	△ 0.031	△ 0.072	5,296,600
7/6（火）	28,643.21	0.040	110.86	△ 0.032	△ 0.075	5,308,800
7/7（水）	28,366.95	0.030	110.50	△ 0.032	△ 0.072	5,317,200
7/8（木）	28,118.03	0.025	110.56	△ 0.033	△ 0.074	5,330,500
7/9（金）	27,940.42	0.026	109.90	△ 0.034	△ 0.075	5,307,600

来週（7月12日から7月16日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/12 (月)	5月の機械受注統計(内閣府 8:50) 6月の企業物価指数(日銀 8:50)				
7/13 (火)		20Y 12,000億円 7/14発行	交付税借入 11,000億円 7/26借入		6月の米財政収支 6月の米消費者物価指数
7/14 (水)					米ページブック 6月の米生産者物価指数 6月の英消費者物価指数
7/15 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～) 5月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 53,000億円 7/19発行	流動性供給 4,000億円 7/16発行	交付税借入 11,000億円 7/28借入	6月の米鉱工業生産・設備稼働率
7/16 (金)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 5月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				6月の米小売売上高 5月の米企業在庫 7月のミシガン大消費者信頼感指数速報 6月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/12 (月)	500	14,100	14,600	CP買入 社債買入	▲ 400	1,300	900	15,500	国立大学法人運営費 TB3M発行▲53000償還65900 TB6M発行▲34000償還36900
7/13 (火)	1,000	3,000	4,000				0	4,000	
7/14 (水)	0	▲ 33,000	▲ 33,000				0	▲ 33,000	源泉所得税（賞与分） 労働保険 社会保障費 20Y発行▲12000
7/15 (木)	▲ 1,000	3,000	2,000				0	2,000	個人向け3・5・10Y発行▲2300 償還1600
7/16 (金)	▲ 1,000	2,000	1,000	CP買入		5,000	5,000	6,000	流動性供給▲4000 交付税借入▲11000期日10500
週間合計	▲ 500	▲ 10,900	▲ 11,400	—	▲ 400	6,300	5,900	▲ 5,500	

7/12は日銀予想、7/13以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終週を迎えるが、着地に向けた調整が済んでいる先が一部で見られることから、無担保コールO/N物加重平均レートは横ばい圏で推移することが見込まれる。新しい積み期間に入る16日以降は一旦低下すると予想する。レポ市場は、積み最終週となり、資金ニーズに変化が出るか注目される。短国市場は、15日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、13日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、13日にCP等買入オペが5,000億円で実施予定となっている。発行レートは低水準となっているものの、7月初めということで、担保確保ニーズが若干薄れ、売却姿勢が強まりやすいと考えられる。ある程度の応札額が見込まれるため、按分レートが大きく変動するとは考えにくい。

主要なイベントは、国内では15～16日に日銀金融政策決定会合、海外では13日に6月の米消費者物価指数、14日に米ページブック、6月の英消費者物価指数の公表等が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入